

福祉実習に関する教育的効果について

高 田 美 子

キーワード：RL・自己理解・他者理解・対人援助・セルフエスティーム

I. はじめに

地球規模で進む高齢化は、団塊の世代が65歳に達する2015年を目前にし、さらに10年後の2025年には75歳以上の後期高齢者数が2,000万人を超えることが見込まれ、行政、労働、福祉等多くの分野で社会問題化してきている。

高齢化とは単に高齢者人口の割合が増加する現象だけではなく、15歳未満の人口の割合も併せて低下する社会であり、わが国の高齢化社会の特徴は先進国と比較して、最も急速に少子・高齢社会に移行していったことにある。家族の規模は着実に縮小化へと進み、家族機能に変化をもたらした新たな生活問題を生み出している。平均寿命の伸びは、そのまま介護期間の延長すなわち介護期間の長期化を意味する。

2000年以降の介護保険制度導入による、介護の社会化は、従来の家族中心のケアから、もはや社会的に、対応していかなければならない重要な課題として提示されている。したがって福祉人材教育の果たす役割はきわめて大きい。

福祉人材教育においては、学生は介護福祉実習という形で、実践現場で初めて出会うことになる。高齢者・障害者と出会い、直接的な関わりをもつ際の戸惑いは少なくない。戸惑いを受けとめ、新しい人間理解へと深めていくことが介護福祉実習の大きな課題である。ある程度の基礎知識があるにもかかわらず、実際の福祉実習場面に直面すると、様相を異にするのである。中でも学生が最も困難と感じていることはコミュニケーションである。初対面で高齢者・障害者、さらにコミュニケーション障害がある人々と、人間関係を構築していくことは容易ではない。介護福祉実践は、介護を必要とする高齢者及び障害者との直接的な関わりを通じて展開される援助である。実践教育は、すぐれて対人的・対面的性格を持っていることから、介護を展開する上で、サービス利用者（高齢者）をどのように理解するか、きわめて重要である。

介護福祉士を志す学生は、福祉実習に対する期待感や福祉実習意欲の裏側に、福祉実習に対する不安感や切迫感、未知の経験へのおそれ、人間関係での自信のなさ、戸惑いなど、福祉実習でつまづき、挫折していく例も少なくない。そうした学生との関わりを通して、福祉実習における学生たちの苦悩が見えてきている。

そのつまずきの原因を小林¹⁾は、対人関係能力の弱さ、共感性の乏しさ、他者理解や他者受容の弱さなど様々な問題として指摘している。つまり規範意識の低下や家庭の教育力の低下など、成長発達の過程で問題を処理する能力が、育ちそびれていることが原因であるといえる。

福祉教育の現場において教育を展開していくとき、育ちそびれていること、問題解決能力の不足などを視野に入れ、今日の若者の特性を理解し教育を進めなければならない。若者の育った環境、社会的背景など、特に1990年以降の教育改革による「ゆとり教育」「教育環境の変化」などを考慮して、精神的、社会的に未成熟な傾向にある学生であることを、教育者側が理解を深めなければならないと考える。

また学生は、福祉実習に対するイメージは楽しみととらえながらも、不安感とはとてもなく大きい。学内では出来る限り福祉実習準備をするのであるが、介護技術や日々の学習など学ばなければならないことが数多くある。学生は福祉実習全体をしっかりとイメージ出来ないまま福祉実習に入るのである。ある学生は福祉実習になった途端、食欲が減少し腹痛を訴えたり、心理的な原因が引き起こす身体症状の異常が出現した例がある。福祉教育のあり方として、高齢者に関する学生のコミュニケーション能力のスキルアップにつなげられるような教育を展開していかなければならない。学生は「実習」という限られた時間の中で、新しい人間関係の構築を迫られるのである。他者理解が促進され、福祉実習において、実習をより効果的に行うため、本研究では福祉実習前後の学生の意識をロールレタリング **RoLe Lettering** 「役割交換書簡法」(以下 **RL** と表記)、自尊感情尺度、**KISS-18** によって明らかにした。小林(2007)¹⁾は、**RL** とは「文を書く」という行為を通して他者理解や自己理解を行う技法であり、「ロール」という言葉が示しているように「自分から他者へ」は通常のリタリングであるが、「他者から自分へ」は、自分が他者の役になって手紙を書くということにこの技法の特徴があると指摘している。そこで、往復書簡を実施し、他者としての高齢者イメージを捉えさせ、コミュニケーションを図るきっかけを会得し、福祉実習に対する不安の軽減につなげようと試みた。高齢者との生活経験が乏しかったり、自尊感情の低い学生たちも、福祉実習を主体的にとらえ、対人援助行為にポジティブな受け止めができるようになった。福祉実習に関する臨床教育的効果についてここに報告する。

II. 研究の方法

1. 対象

K 専門学校介護福祉科 新入学生 25 名

2. 福祉実習に関する質問紙調査を用いた質的研究

- 1) ローゼンバーグ自尊感情尺度 (福祉実習前後に行う)
- 2) 学生の社会性に関する実態調査 社会的スキル **KISS-18** (福祉実習前後に行う)
- 3) 福祉実習前後に対象者 25 名に学生の自己理解、他者理解を促進することを目的とした **RL**

往復書簡を実施し、書かれた RL を質的に分析考察する。

書簡相手は 往復 (往) 私から利用者である「私」へ
(復) 利用者である「私」から私へ

3. 期間

平成 20 年 5 月～12 月

4. 仮説

本研究では、自尊感情と社会的スキル (KISS-18) の獲得の度合いが高齢者支援を進めていく上で相関関係があると仮定し、2つの調査を RL 導入する前と後に行うこととした。福祉実習の効果を見るために福祉実習前後に RL「役割交換書簡法」の導入を試みた。RL は役割交換という独自の書記的方法による技法である。学生にとって「私から利用者へ」「利用者になった私から実習生である私へ」の RL では、ありのままの自分を他者に向けて表現し、他者の視点からも自分を捉え書くという技法であることから、特に初めて福祉実習体験をするこの時期に RL の実践をすることに意味があると考えた。福祉実習教育は、すぐれて対人的・対面的性格を持つことから、介護を展開する上で、高齢者をどのように理解するか、きわめて重要である。そのために福祉実習の目標の一つとして、他者理解、自己理解を深めようと考えた。

5. 研究の意義

先行研究では、福祉教育、介護福祉士教育に関する研究、井上ら (2005) による福祉実習教育方法に関する研究⁷⁾、など、福祉実習プログラム研究はなされている、介護福祉実習そのものについてまた、高齢者理解を促す基礎的方法として、これまで書記的方法を導入した研究はなく、その意味で本研究の意義は教育実践の位置付けとして重要である。こうして本研究をすすめることによって、福祉人材教育の視点からも重要な知見を提供することになると考える。

6. 倫理的配慮

1) ロールレタリング実施指導案の資料を事前に配布し説明を行った。一人二役すること役割交換をして手紙を書くこと、要項を基に指示した。

2) 福祉実習前であり高齢者のイメージを想像だけではなく、ボランティア体験福祉実習で関わった高齢者とイメージし RL の書簡相手を限定し、学生自身が戸惑わないように配慮した。

3) 研究承諾が得られた 25 名の学生を対象とし、福祉実習成績には一切関係のないこと、気持ちが進まないときにはいつでも中止ができることを伝え実施する。

4) 得られたデータは研究以外には一切使うことなく、個人が特定されないように配慮した。

5) M 大学倫理委員長の承認を得ている。

Ⅲ. 結果および考察

1. 学生の自尊感情の調査

自尊感情尺度 (Self-Esteem Scale) : 本尺度はローゼンバーグ (Rosenberg, 1965)⁽²⁾が作成し山本ほか (1982) が邦訳したものである。自尊感情とは、自分自身についてどのように感じるのかという感じ方のことであり、自己の能力や価値観についての評価的な感情や感覚のことである。他者との比較により生じる優越感や劣等感ではなく、自身で自己への尊重や価値を評価する程度のことを自尊感情と考えている。また、自身を「非常によい (very good)」と感じることではなく「これでよい (good enough)」と感じる程度が自尊感情の高さを示すと考えており、自尊感情が低いということは自己拒否、自己不満足、自己軽蔑を表し自己に対する尊敬を欠いていることを意味するものである。10項目の感情的評価の測定尺度からなっている (資料 I)。合計得点は10点~50点の範囲に分布する5段階尺度を得点化し (表1) の結果が得られた。全体の得点は男女共に、30~21点台に集中していて、自己の価値や存在など自己評価は必ずしも高い値であるとはいえない。自尊感情が低いということは自己拒否、自己不満足、自己軽蔑を表し自己に対する尊敬を欠いていることを意味するのである。しかし福祉実習前後での平均値では、福祉実習前は、平均 28.6、福祉実習後は、平均 29.2 であった。わずかではあるが福祉実習後の自尊感情の値が高い結果となった。

2. 学生の社会的スキル (KISS-18) の調査

社会的スキルとは「対人関係を円滑に運ぶために役立つスキル (技能)」⁽³⁾と定義される (菊池1998)。ゴールドSTEINら (1986) は若者にとって必要な社会的スキルを大きく6種類に分類した。①初歩的スキル②高度のスキル③感情処理のスキル④攻撃に代わるスキル⑤ストレスを処理するスキル⑥計画のスキルである。この分類にしたがって本尺度は、若者にとって必要な社会

表1 自尊感情尺度値 (福祉実習前後)

(単位: 人)

対象者	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y
実習前	29	29	34	25	25	28	30	22	25	32	30	28	28	25	31	31	31	27	22	31	48	29	30	29	18
実習後	28	21	30	21	27	33	33	19	31	30	26	31	42	25	36	28	31	32	28	27	50	29	26	32	16
前後の差	-1	-8	-4	-4	2	5	3	-3	6	-2	-4	3	14	0	5	-3	0	5	6	-4	2	0	-4	3	-2

表2 実習前の学生の総合的な社会的スキル

(単位: 人)

対象者	全体	女子	男子
社会適応性高い (合計得点 66 点以上)	4	3	1
社会適応性平均 (合計点数 50~65 点以下)	22	16	6
社会適応性低い (合計点数 49 点以下)	5	2	3
総合的なスキルの平均値	54	58	48

的スキルについて測定したものである。尺度平均測定値は大学生男子（56.4）・大学生女子（58.31）となっている。結果、総合的な社会的適にもとづいてゴールドSTEINらが作成したスキルのリストをもとに、菊池章夫（1988）が項目を作成した。

応性（社会的スキル）の高さが判定される。表2が示すように、男女共に、（50～65）得点に集中していて、結果全体の平均値は一般大学生と比較して、女子の方がやや高く、男子が低い結果となった。次に、個々の社会的スキルを判定する18項目の質問に対して「いつもそうだ」から「いつもそうでない」までの5段階で答えたものを条件式を用いて個人の社会的スキルの高さを求めた（資料I・II）。

3. RL を用いた往復書簡

福祉実習前のレディネスとして、高齢者理解を深める目的のため新入学生25名を対象にRLを実施した。初めての福祉実習体験をする前の、この時期にRLをすることに意義があると仮定して行った。「私から利用者へ」「利用者になった私から私へ」を実施した。その上でRLの逐語録を起こしこの段階で学生の意識の実態について調べた。

介護福祉士は対人援助を最も必要とする専門職であり、自分をどう捉えているのか明確でなければならぬ、従って、自己理解や他者理解ができなければ他者への支援は難しいのである。そこでRLを導入することで福祉実習前の学生の実態を把握し、実践能力や主体性を伸ばしていくことを考えた。新入学生にとって福祉実習はすべてが初めての体験である、学生の福祉実習に対する全般的な捉え方、高齢者への学生の思い、期待感、不安感などについて、（往復書簡）には、福祉実習に対して表3、表4から分かるように緊張や不安に感じているという表現が素直に記述されていた。

今回さらに、RLと並行して福祉実習前後の自尊感情尺度と社会的スキルの得点を求め獲得の度合いからI～IVのカテゴリー別に分類し学生の変化をみることにした。

I～IVのカテゴリー別に学生の変化の結果は、以下である。

I群「福祉実習後の得点がKISS-18と自尊感情どちらもマイナス変化であった学生」6名

II群「福祉実習後の得点がKISS-18のみマイナス変化であった学生」は5名

III群「福祉実習後の得点が自尊感情のみマイナスであった学生」は7名

IV群「福祉実習後の得点がKISS-18と自尊感情どちらもプラスに変化した学生」は7名

自尊感情尺度と社会的スキルの獲得の度合いが高齢者支援を進めていく上で重要であると考えた「自尊感情」「社会的スキル」の関連について相関係数は1%水準で有意であった。福祉実習前後に測定した結果、自尊感情得点は福祉実習後に1ポイント上昇していたことが明らかになった。中でも今回は、I群とIV群のカテゴリーから抽出された福祉実習後の得点が自尊感情、KISS-18どちらも高値を示している学生群、低値であった学生群より1名ずつ無作為に抽出し比較した。

1) 表3に示した、I群「福祉実習後の得点が KISS-18 と自尊感情どちらもマイナス変化であった学生 A」福祉実習前の往復の RL では「失敗もたくさんして利用者さんを困らせることもありますが、一生懸命がんばります、福祉実習前の復から課題「利用者になった私から私へ」の RL では利用者になりきり「実習生さんありがとう楽しかったです。もっと話をしたかったです。私は人に話しかけるのが苦手なのでもっと話かけてほしかったです。」学生 A は話しかけることが苦手という記述から、役割交換をすることで、自分に気づき自身の性格ととらえることができ、福祉実習に対する素直な思いを表出していた。この学生は自尊感情や社会的スキルが低値であったが福祉実習後の RL では「利用者になった私から私へ」の RL で、「a さんの笑顔は一生忘れることは出来ない宝物です」と記述していた。学生 A は、何事にも代え難い貴重な経験をしたのである。まじめで素直な学生 A の素顔の一面が伺えた、また、肯定的な自分自身をみつめることができた。福祉実習で自尊感情と社会性を高めることは出来なかったが、対人援助者としての、専門性の自覚は高まったと言えるのではないかと。自分に自信がもてない学生 A は、対人援助者としての、社会性や自己理解は未成熟ではあるが、RL の実践から役割を交換し相手の立場になって考えることができたのではないかと。つまり他者理解が促進されたと言えるのではないかと。RL の効果は今回の結果だけでは評価はできないが学習の動機付けになったのではないと思われる。

2) 表4に示した、IV群「福祉実習後の得点が KISS-18 と自尊感情どちらもプラス変化であった学生 B」学生 B は、福祉実習前の RL から「私は今までにボランティアに参加したことがな

表3 I群 KISS・自尊感情どちらも低い群

		福祉実習前：ボランティア福祉実習で特に関わった特定の利用者をイメージした RL の記述	
	実習前	私（学生）から利用者さんへ	利用者になった（私）から 学生の私へ
		初めまして学生ボランティアの A です失敗もたくさんして利用者さんを困らせることもありますが一生懸命がんばりますのでよろしくお願いします。	学生さん今日はありがとう楽しかったです。もっと話をしたかったです。私は人に話しかけるのが苦手なのでもっと話かけてほしかったです。これからも頑張ってください応援しています。
学		一段階福祉実習体験後：福祉実習中一番心に残った利用者への RL の記述	
生	実習後	私（学生）から利用者さんへ	利用者になった（私）から 学生の私へ
		a さん2週間本当にありがとうございました。拘縮で体が固まっていて少しでも動くのが痛いのに、移乗介助の時など何度も体位変換や関節を強引に動かしてしまいました。あの時の痛そうな顔は今でも忘れることはできません。しかし、福祉実習最終日に見せてくれた a さんの笑顔は私にとって一生忘れる事は出来ない宝物です。a さんのおかげでたくさん勉強することが出来ました。私が最終日に「身体障害者施設」で良かったと思えたのは a さんのおかげです。これからも体気に気をつけてください。	学生さん2週間本当にお疲れ様最初は全く話せなかったね。けどだんだん話もできたね。「介助の時痛い」といって怖がらせてごめんね。まだ介護の勉強を始めたばかりなのでいっぱい失敗したり嫌になることもあると思うけどそれを乗り越えたら一流の介護福祉士に一歩近づくので頑張ってください。緊張するかもしれないけど話しかけてきてね、こちらもできる限りお話します。

表4 IV群 KISS・自尊感情どちらも高い群

		福祉実習前：ボランティア福祉実習で特に関わった特定の利用者をイメージした RL の記述	
学 生 B	実習前	福祉実習前：私（学生）から利用者さんへ 利用者さんへ、こんにちは、私の名前 B です。私は介護福祉士になるために毎日勉強しています。私は今までにボランティア等に参加したことがないので施設がどうい う所なのかどんな利用者さんたちが生活しているのか全然わかりませんが一所懸命が んばるのでよろしくをお願いします。	福祉実習前：利用者になった(私)から学生の私へ 初めての福祉実習で緊張していませんが緊張し すぎて挨拶を忘れてたり大きな声を出したりしな いようにしてください。焦って介助したりする よりゆっくりでも丁寧に介助をすればいいと思 います。いつも笑顔を忘れずにいつも通りの自 分らしさを忘れずに福祉実習してください。 学生さん今日はありがとう、車椅子をおしてく れたりコミュニケーションをしてくれてすごく 嬉しかったです。でも笑顔が少なかったと思い ました。次の福祉実習では笑顔を忘れずに頑張 ってくださいね。
	実習後	福祉実習後：一段階福祉実習体験後福祉実習中一番心に残った利用者への RL の記述 福祉実習前：私（学生）から利用者さんへ b さんへ 12 日間という短い期間でしたが ありがとうございました。私が朝フロアへ 行って挨拶するといつも返事をしてくださ った本当に嬉しかったです。今日も 1 日頑 張ろうという気持ちになれました。そんな b さんが一番印象に残っています。私は b さんから本当にたくさんのことを教えてい ただきました。コミュニケーションをして いるときも、いつも笑顔で接してくださ ったり着脱介助や排泄介助のときも、「勉強 のためだからいいよ」と私が観察すること や介助をすることを拒まずにしてくださ って昼の間の時間は b さんと会話したこ とを覚えておこうと思ったことがあります 。「今のうちは失敗してもいいまだまだ 若いし学生なんやからたくさん失敗をして 次成功したらそれで成長したことになるん だから」これは私のにとって本当に学びに なりました。まだまだ勉強することも多い ですが良い介護者になれるように頑張っ ていこうと思います。	福祉実習前：利用者になった(私)から学生の私へ 福祉実習さんへ 福祉実習に来て初日はすごく緊張していま したね。自分では思っていないかもしれないけれど 初めは笑顔ではなかったから怖かったなあと思 います。でも福祉実習になってくると毎朝の挨 拶や声かけができるようになっていました。日 が経つごとに笑顔もみられるようになったと思 います福祉実習ではできたら初日から笑顔で元 気よく福祉実習に取り組んでみてください。12 日間と短い期間だったけど話し相手がいて楽し かったです。私の名前も覚えてくれてありがと う。福祉実習お疲れ様でした。これからも頑張 って立派な介護福祉士になってください。最初 あなたはとても緊張していましたね。私が話し かけるとあなたはおそるおそるだけど私の目を みてはなしをしてくれましたね。私は目をみて 話してくれてとても嬉しかったです。すこしづ つ私と話してくれる回数が多くなりましたね。

いので施設がどうい
う所なのか、どんな利用者さんたちが生活しているのか全然わかりません」と不安な様子を素直に RL の手紙に書いてあった。施設で暮らす高齢者のイメージが全くつかめない表現をしていた。福祉実習後の往復 RL から「今日も 1 日頑張ろうという気持ちになれました」と記述している。また、利用者より励ましの言葉を受け、技術向上のための努力を惜しまず、優しい態度の利用者と関わったことで、学生 B は対人援助者としてスムーズな人間関係の構築ができたと考える。福祉実習での経験が自己理解や他者理解を深められたのではないかと思われる。この事から学生は専門性と社会性がある程度深まったのではないかとと思われる。

3) RL I～IV カテゴリー別、文中のことばの分析

表5は、RL の書簡の文中から得られた、もっとも多かったものである。福祉実習前後の RL から抽出された最も多いことば、「不安 42」「緊張 47」「心配 5」であり、きわめて福祉実習でネ

ガティブなことばが多いことがわかる。一方、福祉実習後では「不安 17」「緊張 26」などがあるながらも、「ありがとう 32」「笑顔 16」「頑張る 26」「楽しい 31」など全体を通して感謝のことばが多かった。学生の心理状態は概してポジティブに変化していた。学生は高齢者や障害者と関わり「ありがとう」「頑張って」「笑顔」「楽しい」など感謝のことばを表わしている。したがって学生は他者である高齢者の直接のことばをポジティブに受け止めている様子が伺える。このことから学生は、対人援助の基本的部分である感謝の気持ちと優しさ、高齢者への配慮など、より自分自身を高められる体験をこの実習で得ることができたと言える。

福祉実習前後に RL を「書く」ことによって、感情と思考の統合と自己洞察ができ福祉実習に対する内的動機付けがある程度深まったのではないと思われる。また、RL の文書から抽出された最も多く使用されていた語彙を 5 つ抽出し、I～IV カテゴリー別に分析し学生の心理的な変化について考察した。I 群「福祉実習後の得点が KISS-18 と自尊感情どちらもマイナス変化であった学生」6 名であった。RL では福祉実習後の復の RL が書けない学生もいた。もともと自分に自信がないなどの学生が福祉実習でさらに自尊感情や社会性が落ち込んだのである。しかし、福祉実習後の RL の抽出語彙別表からも明らかであるように、「ありがとう」「うれしい」など、ポジティブな感謝のことばが福祉実習後に増加していたことがわかった。「緊張」の語彙では、I 群と IV 群で福祉実習後の語彙数を比較すると、福祉実習後の緊張が高くなっているのが IV 群で専門性の自覚がもてた結果であり、低値になっていたのが I 群であり興味深いものであった。先の IV 群での緊張の高まりは福祉実習を通して I 群の緊張の軽減は福祉実習での達成感や自信となった。福祉実習後の緊張は両方共に「肯定的な緊張」であると結論付けた。以上の事は学生にとって大きな成長となったと思われる。したがって今回この研究結果は有用なデータであると言える。

RL から抽出された語彙の分析カテゴリー別は以下の通りである。

I 群の福祉実習前後の RL 「私から高齢者へ」往の内容から「ありがとう」のことばについて、《I 群：自尊感情と社会的スキル得点のどちらもマイナス》の学生「ありがとう」のことばの数値が上昇していることに注目したい。0 から 5 ポイント上昇していた。自尊感情、社

表 5 福祉実習前後の RL 逐語録より多かったことば (述べ文字数)

	最も多く抽出されたことば	実習前		実習後	
		往	復	往	復
1	ありがとう	0	19	13	19
2	笑顔	3	5	8	8
3	楽しい・楽しかった	11	17	14	17
4	うれしい	2	12	13	12
5	感謝	0	1	1	0
6	頑張ります・頑張る	15	23	10	16
7	心に残った	1	0	0	0
8	さみしい	1	0	2	4
9	不安	24	2	12	5
10	心配	3	1	0	1
11	緊張	12	9	14	12
12	元気	4	4	5	9

表 6 ありがとうのことばから分析 (述べ文字数)

	実習前		実習後	
	往	復	往	復
I どちらもマイナス	0	4	2	1
II KISS のみマイナス	2	2	5	2
III 自尊感情のみマイナス	0	1	2	5
IV どちらもプラス	0	5	4	4

会性が最も低い群で、感謝の気持ち「ありがとう」Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、群中よりもプラスであった。Ⅰ群の学生は自分に自信がないなど自分を認められず、また社会的スキルも低く福祉実習においてもスムーズではなかったと思われる学生であること。福祉実習後のことばとして他の群との比較では、対人援助の基本的部分である感謝の気持ちや相手を思いやることの優しさがうかがえる。学生の温和で非常に心のこもった「ありがとう」であると言える。これらのことから学生は他者理解、自己理解が深まっていると言えるのではないかと。

「うれしい」について、《Ⅳ群：自尊感情 KISS どちらもプラス得点》《Ⅰ群：自尊感情 KIS どちらもマイナス》では福祉実習後の復の RL から「うれしい」のことばの数値が減少している。これは福祉実習が終了したという安心した心理状況から減少したのではないかと思われる。

また、実習において自尊感情を高められる経験が少なかったのではないかと、とも考えられる。《Ⅲ群：自尊感情のみマイナス》の学生について見てみると、福祉実習後に4ポイント上昇していることから、自分に自信がもてなかった学生が福祉実習で自尊感情を高められる確かな学びを得たのではないかと分析でき、専門性の高まりにつながると考えられる。自己理解、他者理解が促進されたといえるのではないかと。

「頑張る」を福祉実習前と福祉実習後でⅠ～Ⅳ群を比較して見てみると、福祉実習前の往復 RL 共に「頑張る」のことばが、多く福祉実習後には、減少していることがわかった。これは、福祉実習が終了した、安堵感から福祉実習後に減少したのではないかと。

また、社会的スキルや自尊感情の高低の得点に関わらず、学生の多くは実習後に「頑張る」の言葉が減少している事実から、RL を書くことで、福祉実習を振り返り多くの体験を思い浮かべ、安堵感の裏側に自分自身に向けた多くの葛藤があったのではないかと。その意味では学生の素直な思いが表出された。

「緊張」のことばを群別に比較してみると、Ⅰ・Ⅱ群の福祉実習後では「緊張」のことばが減少した。しかしⅣ群では福祉実習後の「緊張」の度合いが上昇している。以上のことから、「緊張」について二通りのことが言える。第一は、Ⅰ・Ⅱ群の福祉実習前の緊張について、不安感や高齢者観の否定的な要素などが考えられる。しかし、福祉実習後の「緊張」の軽減は達成感や自信に繋がり、「緊張」そのものが軽減したと考えられる。第二はⅣ群での「緊張」の増加

表7 うれしいのことばから分析 (述ベ文字数)

	実習前		実習後	
	往	復	往	復
I どちらもマイナス	0	6	5	2
II KISS のみマイナス	0	4	3	8
III 自尊感情のみマイナス	0	4	1	4
IV どちらもプラス	0	5	4	5

表8 頑張るのことばから分析 (述ベ文字数)

	実習前		実習後	
	往	復	往	復
I どちらもマイナス	2	5	2	3
II KISS のみマイナス	4	5	1	3
III 自尊感情のみマイナス	4	5	3	4
IV どちらもプラス	5	8	3	6

表9 緊張のことばから分析 (述ベ文字数)

	実習前		実習後	
	往	復	往	復
I どちらもマイナス	1	4	1	0
II KISS のみマイナス	3	2	2	2
III 自尊感情のみマイナス	6	2	5	5
IV どちらもプラス	2	1	6	5

は、福祉実習を通しての専門性の自覚が持てたのではないと思われる。自尊感情で、マイナスの学生が、実習を通して、介護に対する自信をと、解釈することができる。ゆえに福祉実習後の「緊張」が上昇していると考えられる。両方共に「肯定的な緊張」と言えるのではないか。Ⅳ群は社会性や自尊感情の高い群の学生である。対人援助職を目指す者として、「緊張」の高まりは、福祉実習を通じた「成長」であると結論付けることができる。

「不安」について福祉実習前後のⅠ～Ⅳ群をみると概ね福祉実習後には低下しているが、Ⅲ群のみ福祉実習後も「不安」値は高くⅠ・Ⅱ・Ⅳ群では福祉実習後の「不安」のことは減少している。これは、実習の体験から肯定的な減少と考えることができる。一方、Ⅲ群《自尊感情のみマイナス》の学生について、1ポイントであるが「不安」が高く、実習後において、専門性の自覚からくる不安の高まりではないと思われる。高齢者理解や慈しむ内容の言葉が多くみられた。RLを心に残った高齢者をイメージさせて書かせたことで、実習全体の振り返りと学生自身の気づきのきっかけとなった。他者理解や自己理解がある程度深まっているといえる。

表 10 不安のことはから分析 (述べて文字数)

	実習前		実習後	
	往	復	往	復
Ⅰ どちらもマイナス	4	1	2	1
Ⅱ KISSのみマイナス	6	0	3	0
Ⅲ 自尊感情のみマイナス	9	1	4	2
Ⅳ どちらもプラス	4	0	3	2

4) 福祉教育に生かすロールレタリング

RLを福祉実習前後に導入することで高齢者理解がある程度深まったと思える。学生が福祉実習での対象は高齢者・障害者であることは理解していても、具体的なイメージがつかめないうまま、不安や緊張を抱えている。また、極度に失敗を恐れている傾向もあった。そこで本研究では、福祉実習プログラムの一環としてRLを導入し、自己理解、他者理解の促進を試みた。その結果、福祉実習に対する学生の意識の変化がみられた、福祉実習前後のRLである程度深まった跡が見られた。福祉実習前後のRLの記述から自尊感情者・社会的スキルが共に低値であった学生も役割交換をすることで利用者を理解するきっかけとなり利用者理解の促進につながった。今回示したⅠ群とⅣ群のカテゴリーから抽出された福祉実習後の得点が自尊感情、KISS-18どちらも高値を示している学生群、低値であった学生が福祉実習を前にして不安や緊張を抱えて失敗することを極度に怖がっていた。利用者と関わる際、不安についてRLを通して、如実に表現されていた。一方で「笑顔を見るのを楽しみにしている」「高齢者に会うことを楽しみにしている」「精一杯がんばる」「福祉実習をする喜び」など福祉実習に希望をもっていることも分かった。学生の生活体験の不足や成功体験の脆弱さなどから福祉実習前はネガティブな思考になっていたが福祉実習を経験し「消極的な態度」であったと学生個人の課題として記述していたが、福祉実習を経験し肯定的な思考や表現に変化していたこうした福祉実習プログラムが必要であることがわかった。したがって、今後福祉実習プログラムに生かせる方法として考えられるのである。

また、今回参加した学生は生活体験の不足や成功体験の脆弱さに加えて、高齢者との生活経験が少ない学生であった。25名中、祖父母が近くに住んでいるという、学生は3名いるが、3世帯

同居をしている学生は、全くいなかった。また、家庭で高齢者と同居していても私生活を優先し、高齢者と関わる機会が家庭内でも減少している。したがって、福祉実習前後に RL を実践できたことは高齢者を理解する上できわめて貴重な体験であった。

介護はきわめて対人援助を必要とすることから、青年期の心理的社会的状況では若者は対人関係の深まりを避ける傾向にあることが指摘されている⁽¹⁰⁾。介護はきわめて対人援助を必要とすることから、また若者の育った生活環境や教育、社会状況なども含めて、このような学生に対して RL を実施したものである。また若者の育った生活環境や教育、社会状況なども含めて、このような学生に対して RL を実施したものである。

RL は言語的表出による「心理的安定」と「癒しを得るものであり」⁽¹⁾⁽⁴⁾フロイトは言葉で語ることが行動の代理的となり、鬱憤を誰かに語ることによって情動体験を発散することが可能であることを見出した。これをフロイトはカタルシス⁽⁸⁾と名づけている。自分を客観的に見つめる事が出来るようになる。距離をおいて自分をみるということは、自分のよさと同時に自分のいたらなさ、自分の問題点、自分の不合理、自分の弱さも見えてくる。ここにこそ自己洞察が生まれ、気づきも始まるのである。RL の実践から学生は自己理解が深まった。福祉実習で学生は真剣に悩み自己の問題解決に向い、学生は対人援助者として人間関係を客観視する学習ができた。福祉職を選んだ学生の優しい気質もベースにあると思われるが、学生の他者理解、自己理解を深めるきっかけとなり肯定的に事象を理解することができた。自律的で成熟した自己イメージに変化することができた。RL を行うことで相手の立場や気持ちに気付くことができた。学生自らの変化の体験から RL の必要性は示唆されたといえる。

RL における 7 つの実践的仮説 (春口 1995)⁽⁵⁾、今回は 1 回の RL の内容から学生 25 名について活用できたと思われる項目は以下である。

7 つの実践的仮説

1. 文章による感情の明確化 (自分の気持ちを素直に表出できた)
2. 自己カウンセリング (福祉実習での不安や失敗、喜びを告白していた)
3. カタルシス作用 (否定的感情を書いていた)
4. 対決と受容 (高齢者への否定的なイメージや感情表現は少ない)
5. 自己と他者の双方視点の獲得 (最も他者理解、自己理解が促進できた)
6. イメージ脱感作 (福祉実習で関わる全ての他者から受けた評価)
7. 非論理的・自己敗北的・不合理な思考形成への気づき

などである。福祉実習前後の RL 「私から利用者へ」「利用者になった私から私へ」の往復書簡を実施した結果、学生個人が対象とする他者としての高齢者イメージを捉えることができていた。コミュニケーションを図るきっかけや、福祉実習に対する不安の軽減につながり、学生自らが福祉実習を主体的に考えることができた。学生が自分自身の福祉実習として自覚し福祉実習を主体的に展開する能力を養う。学生が福祉実習先の環境に早期適応できる能力を養う。専門職としての成熟した社会性を養う。今日的視点で抜本的に見直す必要があると思われる。

IV. ま と め

学生が福祉実習で学ぶ対象が高齢者・障害者であることは理解していても具体的なイメージがつかない状況であることが理解できた。社会性や自尊感情が低く自分に自信がもてない学生も今回の RL の実践役割を交換し利用者になりきり、相手の立場になって考える事が出来た。RL を実践することで学生の成長をある程度促すことができたと思われる。福祉職を目指し、高齢者・障害者に対する志の高い学生が資格取得のためあるいは、やりがいを感じて入学してくる若者たちであっても、福祉実習での人間関係につまずき挫折していく学生も少なくない。退学や休学に追い込まないためにも質の高い教育が提供できる様一層の努力が必要である。対人援助職にふさわしい、温かなところと冷静な頭脳を持ち合わせた調和のとれた人材を育成しなければならない。

引用文献

- (1) 小林剛 2007「書くこと」による感情と思考の統合と自己洞察『現代のエスプリ』482, 52-60
- (2) 堀洋道 2001「心理測定尺度集Ⅰ 自己評価・自尊感情 自尊感情尺度」サイエンス社, 29-31
- (3) 菊池 1988「心理測定尺度集Ⅱ 4 対人関係」サイエンス社, 170-173
- (4) 小林剛 2007「ロールレタリング研究」第7号 1-25
- (5) 井頭久子・松岡洋一「2006 ロールレタリングによる母親の子育て支援」『ロールレタリング研究』第6集, 27-41
- (6) 井上桜・三富道子・渡辺薫「福祉実習教育方法に関する基礎的研究②」平成17年度特別研究費実績報告書

参考文献

- 1) 青年期のアイデンティティとその障害, 1990, 川島書店
- 2) 今泉信人・南博文編, 1991, 人間周期の中の青年心理学, 北大路書房
- 3) 相川充・津村俊充(共編著), 1996, 社会的スキルと対人関係・自己表現を援助する, 誠信書房
- 4) 遠藤辰夫・井上祥治・蘭千壽(分担執筆), 1992, セルフ・エスティームの心理学自己価値の探求, ナカシヤ出版
- 5) これからの社会福祉士・介護福祉士, 月刊福祉 2月号, 2007
- 6) 渡辺真, 2005, モラトリアム青年高肯定論現代のエスプリ No.460
- 7) 香山リカ, 2002, 若者の法則, 岩波書店
- 8) 相川充, 2001, 人づきあいの技術, 社会的スキルの心理学, サイエンス社
- 10) 大坊郁夫, 2003, 社会的スキルトレーニングの方法序説, 対人社会心理学研究第3号
- 11) 黒澤貞夫・前川美智子, 2004, リーディング介護福祉学, 福祉実習指導, 建帛社, 1-5
- 12) 岩瀬康理訳, 1973, Identity: Youth and Crisis W. W. norton, アイデンティティ青年と危機, 金沢文庫, 25-32
- 13) 安藤順一郎, 1990, 青年期の育成と福祉, ライブラリ総合福祉4, 学文社刊, 第一発行, 159-168
- 14) 岩瀬康理訳, 1973, Identity: Youth and Crisis W. W. norton, アイデンティティ青年と危機, 金沢文庫, 25-32

[たかた よしこ 老熟看護学]

資料Ⅰ 自尊感情尺度

項目内容	自尊感情尺度
教示 次の特徴のおおのについて、あなた自身にどの程度あてはまるかをお答え下さい。他からどう見られているかではなく、あなたが、あなた自身をどのように思っているかを、ありのままにお答え下さい。	
選択肢 あてはまる…5、ややあてはまらない…4、どちらともいえない…3、ややあてはまらない…2、あてはまらない…1	
項目	あてはまる 5 4 3 2 1
1. 少なくとも人並みには、価値のある人間である。	_____
2. 色々な良い素質をもっている。	_____
●3. 敗北者だと思ふことがある。	_____
4. 物事を人並みには、うまくやれる。	_____
●5. 自分には、自慢できるところがあまりない。	_____
6. 自分に対して肯定的である。	_____
7. だいたいにおいて、自分に満足している。	_____
●8. もっと自分自身を尊敬できるようになりたい。	_____
●9. 自分は全くだめな人間だと思ふことがある。	_____
●10. 何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思ふ。	_____
(実施時には、逆転項目を示す●マークを削除する。)	

資料Ⅱ KISS-18 測定尺度

項目内容	KISS - 18
教示 以下の文章を読んで、自分にどれだけ当てはまるかお答え下さい。	
【選択肢】	
5. いつもそうだ	
4. たいていそうだ	
3. どちらともいえない	
2. たいていそうでない	
1. いつもそうでない	
項目	いつも 5 4 3 2 1
1. 他人と話していて、あまり会話が途切れない方ですか。	_____
2. 他人にやってもらいたいことを、うまく指示することができますか。	_____
3. 他人を助けることを、上手にやれますか。	_____
4. 相手が怒っているときに、うまくなだめることができますか。	_____
5. 知らない人でも、すぐに会話が始められますか。	_____
6. まわりの人たちのあいだでトラブルが起きても、それを上手に処理できますか。	_____
7. こわさや恐ろしさを感じたときに、それをうまく処理できますか。	_____
8. 気まずいことがあった相手と、上手に和解できますか。	_____
9. 仕事をするとき、何をどうやらよいか決められますか。	_____
10. 他人が話しているところに、気軽に参加できますか。	_____
11. 相手から非難されたときにも、それをうまく片付けることができますか。	_____
(p173～174)	

項目内容	KISS - 18
	たいてい 5 4 3 2 1
12. 仕事の上で、どこに問題があるかすぐに見つけることができますか。	_____
13. 自分の感情や気持ちを、素直に表現できますか。	_____
14. あちこちから矛盾した話が伝わってきて、うまく処理できますか。	_____
15. 初対面の人に、自己紹介が上手にできますか。	_____
16. 何か失敗したときに、すぐに謝ることができますか。	_____
17. まわりの人たちが自分とは違った考えをもっている、うまくやっていけますか。	_____
18. 仕事の目標を立てるのに、あまり困難を感じないほうですか。	_____

実習前後の個々の社会的スキル

2008/10/6 実習後KISS-18																									
	1	5	15	2	10	16	4	7	13	3	6	8	11	14	17	9	12	18	total	a	b	c	d	e	f
1	2	3	3	2	2	5	2	3	2	3	2	3	2	3	4	3	3	3	50	8	9	7	8	9	9
2	3	2	1	3	3	5	1	5	2	3	3	3	5	4	5	3	3	3	57	6	11	8	9	14	9
3	4	4	2	4	3	3	4	4	3	4	4	4	3	3	2	3	2	3	59	10	10	11	12	8	8
4	1	1	2	2	1	5	4	1	2	4	3	2	1	4	4	1	1	3	42	4	8	7	9	9	5
5	2	1	2	3	2	4	2	2	3	3	2	2	3	3	3	1	1	2	41	5	9	7	7	9	4
6	1	5	3	1	1	5	1	5	3	2	5	5	1	2	5	4	1	5	55	9	7	9	12	8	10
7	2	1	2	2	2	4	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	4	3	42	5	8	6	6	7	10
8	3	1	2	3	2	5	3	2	3	3	1	2	4	4	3	2	3	4	50	6	10	8	6	11	9
9	4	4	3	2	3	5	2	3	4	2	2	3	3	4	3	4	3	2	56	11	10	9	7	10	9
10	3	4	4	3	4	5	3	3	5	3	3	3	3	4	3	5	4	65	11	12	11	9	10	12	
11	3	3	3	3	2	4	3	2	3	3	2	3	2	2	3	3	3	50	9	9	8	8	7	9	
12	4	3	3	1	3	4	3	2	2	2	2	2	2	4	2	3	3	48	10	8	7	6	9	8	
13	3	2	2	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	51	7	9	8	9	9	9	
14	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	88	15	15	15	15	15	13	
15	4	3	3	2	2	4	3	3	4	3	3	3	2	3	4	3	3	55	10	8	10	9	9	9	
16	3	3	4	3	3	3	4	3	4	4	4	3	4	4	4	3	4	3	63	10	9	11	11	12	10
17	3	3	3	3	4	4	3	2	4	4	3	2	2	2	4	3	2	3	54	9	11	9	9	8	8
18	3	3	4	4	3	4	4	2	3	3	3	4	2	4	4	4	4	62	10	11	9	10	10	12	
19	3	4	2	3	4	4	4	3	4	4	3	4	3	3	4	3	2	59	9	11	11	11	10	7	
20	2	2	1	2	2	4	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	2	3	39	5	8	6	6	7	7
21	2	3	4	1	3	4	2	2	3	2	2	2	3	3	3	3	1	46	9	8	7	6	9	7	
22	5	5	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	89	14	15	15	15	15	15	
23	4	4	4	4	3	5	4	3	3	4	3	4	3	3	4	4	3	4	66	12	12	10	11	10	11
24	3	1	2	3	1	5	2	3	4	2	3	2	2	3	4	2	2	3	47	6	9	9	7	9	7
25	4	5	5	4	3	5	3	4	5	4	4	3	3	5	3	4	5	72	14	12	12	11	11	12	
26	2	2	3	1	1	2	3	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	35	7	4	7	6	5	6	

実習前KISS-18																									
	1	5	15	2	10	16	4	7	13	3	6	8	11	14	17	9	12	18	total	a	b	c	d	e	f
1	2	2	2	2	2	5	3	3	3	3	2	3	2	4	4	2	3	3	50	6	9	9	8	10	8
2	4	3	3	3	2	5	3	4	4	3	3	3	3	3	5	3	3	3	60	10	10	11	9	11	9
3	3	3	2	3	3	4	4	4	3	3	3	3	3	4	3	3	3	57	8	10	11	9	10	9	
4	3	2	5	3	5	2	3	2	1	2	1	3	1	2	3	2	1	3	44	10	10	6	6	6	6
5	2	1	4	2	1	4	3	3	2	2	3	4	3	4	3	3	3	5	52	7	7	8	9	10	11
6	3	1	4	2	1	3	3	2	3	3	1	1	3	1	2	1	2	2	38	8	6	8	5	6	5
7	1	5	2	1	1	2	3	5	3	2	2	4	3	4	3	2	4	3	50	8	4	11	8	10	9
8	3	5	5	4	5	5	3	2	3	5	4	5	4	5	4	5	4	75	13	14	8	14	13	13	
9	1	2	3	2	2	4	3	2	3	2	2	2	2	3	3	2	3	4	44	6	8	8	6	8	8
10	4	4	4	3	3	4	3	3	3	3	2	3	3	4	2	4	3	3	58	12	10	9	8	9	10
11	4	2	3	4	5	2	2	3	3	2	2	3	1	4	2	4	4	1	51	9	11	8	7	7	9
12	4	4	4	3	4	5	3	3	4	3	4	3	3	4	4	3	3	4	65	12	12	10	10	11	10
13	3	3	3	3	2	4	3	2	3	3	3	3	3	3	4	4	3	3	55	9	9	8	9	10	10
14	4	3	4	1	4	4	3	3	4	3	4	3	2	3	4	3	3	3	58	11	9	10	10	9	9
15	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	60	12	12	9	9	9	9	
16	3	4	4	3	4	4	3	3	3	3	3	4	3	3	4	4	3	3	61	11	11	9	10	10	10
17	2	3	4	3	2	4	4	3	3	3	4	4	3	3	4	3	3	3	58	9	9	10	11	10	9
18	4	4	3	2	3	4	3	2	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	54	11	9	8	9	8	9
19	3	3	4	2	3	5	4	2	4	3	4	4	4	1	4	4	2	4	60	10	10	10	11	9	10
20	3	2	3	4	4	3	3	3	2	3	2	2	3	3	2	4	2	2	50	8	11	8	7	8	8
21	3	3	2	4	3	3	4	2	2	4	4	2	3	3	3	4	4	3	56	8	10	8	10	9	11
22	3	1	2	3	4	3	4	4	3	3	3	3	2	3	3	2	2	3	53	8	11	10	9	8	7
23	3	2	2	1	2	3	1	2	1	2	1	2	1	2	3	2	2	3	34	6	6	4	5	6	7
24	4	4	3	3	5	4	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	60	11	12	10	9	9	9
25	4	4	5	4	3	5	4	3	4	4	3	4	3	3	5	3	3	3	67	13	12	11	11	11	9
26	3	1	5	1	3	5	3	3	5	3	2	3	3	3	4	3	4	4	58	9	9	11	8	10	11
27	5	4	5	5	5	5	5	4	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	84	14	15	14	15	14	12
28	3	4	2	2	2	4	3	3	4	3	3	3	3	3	4	3	3	55	9	8	10	9	10	9	
29	4	5	5	4	4	5	4	4	5	4	3	4	3	5	3	3	4	74	14	13	13	11	13	10	
30	4	1	3	2	3	2	1	1	2	3	1	2	3	2	1	2	3	3	39	8	7	4	6	6	8
31	3	3	3	3	3	3	4	3	3	4	3	3	3	3	4	3	3	3	57	9	9	10	10	10	9

*対象学生の人数の増減は実習に参加できなかった学生も含んでいる。